

2017年

ホームページへGo!→
スマホで教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 6月号

衣がえ

衣がえは季節に応じて衣服を着替えることをいい、季節の変化がはっきりしている日本特有の習慣です。現在では、気候に合わせて何を着ても自由という風潮になっていますが、和服では今もこの習慣が守られていて、その日の気候にかかわらず、6月1日からは「単(ひとえ)」、10月1日からは「袷(あわせ)」とされています。

衣がえは平安時代の宮中行事に由来し、その名残で官庁、企業、学校などの衣服(制服)は、6月1日と10月1日に夏服と冬服を替えるところも多く、一般的にも衣服を替える目安となりました。本来は「衣更え」と書きますが、現代は「衣替え」と書くことが多いようです。

衣がえには、季節ごとに衣服を入れ替えるという意味もあります。筆筒の引き出しや押し入れの衣服を入れ替える際は、湿気が多い日を選び、カラッと晴れた日に行いましょう。また、湿気は下のほうにたまるので、デリケートな衣類ほど上のほうにしまうのがよいようです。野菜や果物など、季節を問わず手に入るようになった昨今、衣がえは私たちが季節を感じる事ができる大切な習慣といえるかもしれませんね。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる)先生の言葉より

“「見通しを共有する」ことが大切”

子どもは、たとえ自分の学年より低い出発点であっても、できたことを素直に喜ぶものです。一方、親と先生は、今は学年より低いところを学習しているけれど何か月後、何年後には学年相当どころか学年を追い越していける、という「見通し(学習計画)」をもつことが大切です。そして、子どもと親と先生がその「同じ見通し」をもつことが、子どもを伸ばすためには不可欠なのです。

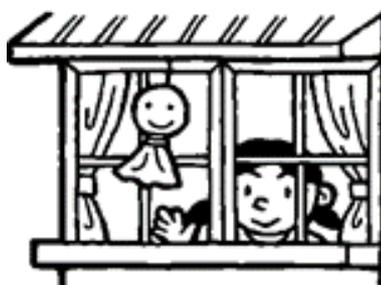
実際、公文式の教室では、学習のスタート時点で出発点が低いと不満そうな顔をする子どもや親御さんがいらっしゃいます。しかし、これまでの公文式の何百万という生徒の事例から確かに言えることは、子ども本人が「できることの喜び」をもつことが大切ということです。そして、やり続けていけば高い段階まで到達できるという「同じ見通し」をもつことがさらに重要ということでした。「できた!」という喜びと、いつまでにどこまで進むという「見通し」を共有している限り、子どもは、意欲をもって学習に取り組んでいきます。

2017年 6月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

本市場教室日□

横割教室日△



*ゆき子の一言コラム

算数ができない子にどう対応するか

最近親御さん方で、よく受ける相談や質問が「うちの子は算数ができない」です。生活力もあって国語もできるのに、算数となるとまるでダメな子がいた。足し算や引き算も2ケタになると途端にできなくなる。その子のお母さんはいい人なのだが、ついイライラして「どうしてできないの!!」と子どもを怒鳴ってしまう。1年生で $8+7$ ができない子がいた。マンツーマンで、ていねいに教えると理解できる。7を2と5に分けて、8と2を足して10。残りは5で、答は15と分かるのだが、「じゃあ、一人でやってごらん」と言うてできない。人間には算数や抽象的思考力、言語能力、空間把握力などいろいろな能力があって、それぞれ発達のスピードが違う。言語能力が発達していても算数能力が遅れている子もいる。逆に算数ができても、絵をうまく描けない子もいる。親としては我が子の能力が友だちと比べて劣っていると不安になるだろうが、発達の仕方は子どもによって違うということをもっと知ってほしいですね。まだ数学的理解力が目覚めていないだけかもしれませんから。

数学の意味が分からずお手上げの中高時代

ある先生の話です。実はわたし自身も数学が苦手だったと、小学校の算数はある程度できたが、中学に入って、「マイナス×マイナス＝プラス」になる意味が全く分からず、数学ができなくなった。なぜ、「 $-2 \times -3 = 6$ 」なのか、イメージできなかったのです。マイナスとマイナスを掛け合わせればプラスになるものと理屈抜きで覚えてしまえばいいのですが、わたしは意味が分からないと次に進めない性格なので、そこで立ち止まってしまったと。また、ルート（平方根）も同様に意味が分からなかった。いくら意味が分からなくても授業はどんどん進み、周りほとんど問題解いているが、わたしには何が何だか全く分からない。結局、中学3年間はまるで数学ができなかった。運悪く、中2～3の担任が数学の先生で、呼び出されて「この数学のテストの平均点は80点なのに、お前は20点だ。何をやっとなか」と言われた。英語だけはよくできてクラスのトップだったし、国語も普通程度だったのに、数学だけはまるっきりできないものだから、担任は許せない。「やればできるのに、数学をバカにしているのだろう」と思われていた。しかし、分からないものは分からないのだから、いくらしかられてもどうしようもなかった。その状態がずっと続いて高校の数学もお手上げ状態で、大学は数学と無縁な私立大学を選んだとのことでした。

数学的な器が自然に育つこともある

もちろん、小学校時代に算数ができないなら放っておけばいいと言っているわけではありません。できない部分をしていねいに優しく教えてやったり、繰り返し練習させたりすることは大切です。ただし、親御さんは注意してください。子どもさんに接するときには、しからず、怒鳴らず、穏やかに教えることです。

できないものはできないのだから、いくら感情的に怒ってもできるようにはなりません。まだ数学的な器が育っていないこともあり得るので、長い目で見てあげる必要があります。それに、その子がもし数学を本当に必要としたときはきっとできるようになります。中学受験を控えた子どもの親は、特に算数の点に神経質になりがちですが、本人にもどうしようもない部分があるのです。大人である親にも、どうしてもできないことはあるはずでしょう。「やればできる」と口で言うのは簡単ですが、そう言っている親自身がなんでもできるのでしょうか？ そんなことはないでしょう。人は誰でも、できないことはあるのです。どうしてもできないときは、目をつぶってやることも必要だと思います。父兄会で、子どもの中学受験に神経をすり減らしているらしい母親に質問されました。話しぶりから、子どもの偏差値が上がらなくてかなり焦っている様子でした。話しながら感情が高ぶってしまう様子から、普通の状態ではないと察せられました。「どう言えば、本人のやる気が出るでしょうか？ 算数が本当にできないんです。どうすれば、算数ができるようになるでしょうか？ もう、このままだと……」と、今にも泣き出しそうだったそうです。その人の頭の中は、すべてそのことでいっぱいなのでしょう。それがすべて子どもにぶつけられているのではないかと、非常に心配になりましたね。整理できない、朝早く起きられないなど、生活面もそうですが、勉強においてもどうしてもできない部分はあえて目をつぶることが必要だと思います。それは親としての大切な資質だと思います。子どもを許せず、しかり続けたり、言っではいけないようなひどい言葉で子どもを傷つけたりすることはしてはいけません。親子関係を壊してまで算数や数学の点を上げる必要はないです。

これは、公文の先生に任せましょう。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

5月分の会費引き落としは5月29日（月）です。よろしくお願いたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

